

--	--	--	--	--

ポスト2022年—「宅地化するべきもの」から「あるべきもの」へ進化した都市農地—

# 都市農地・農業新制度を活かした都市政策

～都市縮小時代の農地・農業一活用・存続に向けた都市計画・農業振興の方策と課題～

- 「あるべきもの」としての都市農地—都市計画・農業振興の課題とポスト2022年
- 新しい都市計画制度・建築規制を都市農地・緑地政策にどう生かすか
- 制度改正の意義・課題と運用状況、後継者が残る農業経営の実現に向けて
- (高知市) 生産緑地制度の導入 □ (世田谷区) 農地保全方針の策定・活用

2020年8月6日(木) 10:00～16:50

厚生会館・会議室 (東京・千代田区)

- 【講師陣】 佐藤 啓二 氏 / (一財)都市農地活用支援センター常務理事・統括研究員  
 有田 智一 氏 / 筑波大学システム情報系社会工学域教授【オンラインでの講演】  
 安藤 光義 氏 / 東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
 高橋 尚裕 氏 / 高知市農林水産部農林水産管理監  
 山梨 勝哉 氏 / 世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課長

■ 会場：厚生会館・会議室

東京都千代田区平河町1-5-9 (案内図は申込後送付)

《新型コロナウイルス感染症に伴うセミナー開催への対応について》  
 予防対策として、座席の間隔を空け、定期的な換気・アルコール消毒の実施等を行います。手洗いやマスク着用等にご協力下さい。

■ 参加費 (1名分)

	1名参加	メディア参加
行政・議員	25,000円	22,000円
一般	35,000円	32,000円

①メディア参加申込みの方は、研修会終了後にCD(講演収録・音声のみ)と資料及び請求書をお送りいたします。②メディア参加には、有田智一氏(筑波大学)、高橋尚裕氏(高知市)のご講演は収録されません。③参加費の払い戻しは致しませんので、申込まれた方のご都合が悪い場合は代理の方のご出席またはメディア参加とさせていただきます。

- 支払方法：請求後の振込・郵便振替・当日払い  
 みずほ銀行麹町支店 普通1159880  
 三井住友銀行麹町支店 普通7411658  
 三菱UFJ銀行神田支店 普通5829767  
 郵便振替:00110-8-81660 口座名: (株)地域科学研究会

■ 申込方法：下記の申込書に所要事項を記入の上送付下さい (FAX・郵送・メール等)

請求書等書類が不要の方は開催日までに上記口座へ振込をお願いします (受講証/会場地図はFAX送信)。書類が必要な方には受講証と共に郵送しますので到着後にお支払いをお願いします。領収書が必要な方には当日受付でお渡し致します (日付、但書等の留意点があれば明記下さい)。

お申し込み・お問い合わせ

あすの街と村を考える

地域科学研究会

東京都千代田区平河町2-3-10ライオンズマンション平河町101  
 TEL03(3234)1231 FAX03(3234)4993 〒102-0082  
<http://chiikikagaku-k.co.jp/>

【申込書】 FAX：03-3234-4993 Email：machi@chiikikagaku-k.co.jp 2020年 月 日

□ 研修会『都市農地・農業新制度を活かした都市政策』への参加

□ 当日参加 □ メディア参加

勤務先

(請求書等宛先名)

連絡担当者

所在地〒

TEL

参加者氏名

所属部課役職名

FAX

Email

〈通信欄〉○を付けて下さい

支払方法(請求後の振込・郵便振替・当日払い)

必要書類(納品書・請求書・見積書・領収書)

請求書等宛先名:

※ご記入いただいた個人情報は、当会の活動(セミナー・出版等の申込受付、連絡、請求、案内等)のみに使用させていただきます。

時	講 義 内 容
10:00	<p>1. ポスト2022年、都市農地問題の課題と展望</p> <p>(一財)都市農地活用支援センター常務理事・統括研究員 佐藤 啓二 氏</p>
11:20	<p>1. 改正された都市農地制度の実施状況 (概観)</p> <p>2. 都市と農に関する新しい世界潮流</p> <p>(1) 世界都市農業サミットと 緑農住まちづくり国際ワークショップ</p> <p>(2) SDG's と都市における農空間利用・農的活動</p> <p>3. 「都市にあるべきものとしての農地」を可能にするための都市計画及び農業振興の課題</p> <p>(1) 都市計画上の課題</p> <p>(2) 農地を対象とした都市緑地政策</p> <p>(3) 緑地＝農空間の地域管理</p> <p>(4) 農業振興上の課題</p> <p>4. まとめ～ポスト2022年に向けて～ &lt;&lt;質疑応答&gt;&gt;</p> <p>〔(一財)都市農地活用支援センター〕農地活用アドバイザー制度・土地活用相談等都市農地を活用した計画的なまちづくりの支援に取組むほか、研修会・セミナーの開催、書籍の刊行等を行っている、また、自治体等からの受託調査研究の実績が多数ある。</p>
12:05	<p>2. 新しい都市計画制度・建築規制と田園住居地域・農地保全地区計画の活用 ～都市縮小時代の土地利用計画と農業振興拠点の形成～</p> <p>筑波大学システム情報系社会工学域教授 有田 智一 氏</p> <p>新しい都市制度・建築規制の下での田園住居地域・農地保全地区計画活用の方策等に加えて、課題と今後の展望等について、オンラインでご講演いただきます(事務局)。</p> <p>【オンラインでの講義】</p> <p>&lt;&lt;質疑応答&gt;&gt;</p> <p>〔有田 智一(ありた ともかず)氏プロフィール〕東京大学大学院工学系研究科修士課程建築学専攻修了。建設省入省後、建築研究所、国土技術政策総合研究所を経て、筑波大学講師、准教授を務め、2012年より現職。日本建築学会建築基準法・都市計画法特別研究委員会委員、市街地環境基準小委員会委員、建築法制委員会委員等を務める、現在、東京都 東京都建築審査会委員、江戸川区都市計画審議会委員、土浦市空き家対策等審議会委員長等多数。</p>
13:30	<p>3. 新制度下での都市農業の展望</p> <p>東京大学大学院農学生命科学研究科教授 安藤 光義 氏</p> <p>1. 都市農業・都市農地を巡る問題状況</p> <p>2. 都市農業・都市農地の政策的検討 一制度改正の背景と実際</p> <p>3. 都市農地の存続を阻む相続税</p> <p>4. 制度改正の意義と残された課題</p> <p>5. 都市農家の現状と今後の展望 一神奈川県秦野市の調査結果から</p> <p>6. 後継者が残る農業経営の実現に向けて 一不動産賃貸の条件悪化</p> <p>7. 制度改正の運用状況 一東京都農業会議のとりまとめ</p> <p>&lt;&lt;質疑応答&gt;&gt;</p> <p>〔安藤 光義(あんどう みつよし)氏プロフィール〕東京大学大学院農学系研究科博士課程修了後、茨城大学農学部助教授、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授等を経て、2015年より現職。著書に、「食と農の羅針盤のあり方を問うー食料・農業・農村基本計画に寄せてー(日本農業年報65)」(編著、2019年)、「米生産調整の大転換ー変化の予兆と今後の展望(日本農業年報)」(編著、2019年)等多数。</p>
15:00	<p>4. 高知市の生産緑地</p> <p>高知市農林水産部農林水産管理監 高橋 尚裕 氏</p> <p>1. 高知市の生産緑地制度について</p> <p>2. 高知市強靱化計画及び立地適正化計画との関係について</p> <p>3. 今後の展開について</p> <p>&lt;&lt;質疑応答&gt;&gt;</p> <p>高知市では、増加する税負担が市街化区域農家の経営を圧迫する状況が続いており、農業委員会建議やJAからの要望、市、JAによる先進地視察等を経て、2019年に生産緑地制度を導入している。</p>
16:10	<p>5. 「世田谷区農地保全方針」策定のねらいと運用 ～重点地区指定、農業振興等拠点整備による農地の保全・活用～</p> <p>世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課長 山梨 勝哉 氏</p> <p>1. 「世田谷区みどりの基本計画」における農地保全の取り組み</p> <p>2. 世田谷区農地保全方針の策定のねらい</p> <p>3. 東京都「農の風景育成地区」指定</p> <p>4. 農業振興等拠点の整備・活用</p> <p>&lt;&lt;質疑応答&gt;&gt;</p> <p>世田谷区は、2009年に「世田谷区農地保全方針」を策定し、農地保全重点地区指定(7地区)・農業振興拠点整備に取組み、農地の保全・活用を図っている。</p>